

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

| | | |
|---------------------|--|------------------------|
| 名称：横浜市釜利谷保育園 | 種別：認可保育所 | |
| 代表者氏名：鈴木 順恵 | 定員（利用人数）：65名（71名） | |
| 所在地：横浜市金沢区釜利谷東1-1-3 | | |
| TEL：045-781-9040 | ホームページ： https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/hoiku-yoji/shisetsu/cocodesearch.html | |
| 【施設・事業所の概要】 | | |
| 開設年月日 1966年7月15日 | | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：横浜市 | | |
| 職員数 | 常勤職員：12名 | 非常勤職員：15名 |
| 専門職員 | （専門職の名称） | |
| | 保育士：園長 1名 | 保育士：23名 |
| | 保育士：主任 1名 | 管理栄養士1名 調理員：4名 |
| 施設・設備の概要 | （居室数） | |
| | 1～2歳児室：2室 | 木造1階建て |
| | 3～5歳児室：2室 調理室：1室 | 建物延床面積：530㎡ 園庭：636㎡ |

③ 理念・基本方針

| |
|---|
| <p>【保育理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分をかけがいのない存在と感じ、他者を思いやる豊かな心を育みます。 ・環境に自ら関わり、遊びを通じて学んでいけるようにします。 ・保護者や地域の方の子育てを支援していきます。 <p>【保育方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありのままの姿や思いを受けとめ、一人ひとりにあった支援をしていきます。 ・地域の自然や文化を生かし、楽しく主体的に遊びが広がるようにします。 ・保護者に寄り添い、ともに成長を喜び合える関係を作っていきます。 <p>【保育目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が大好き、友だち大好き～のびのび、いきいき元気な子～ <p>【保育姿勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康で安全な環境を整え、安心して過ごせるようにしていきます。 ・一人ひとりの発達を捉え、その子に合った声掛けや支援をしていきます。 ・年齢や季節に合った生活環境を整え、遊びが広がっていくようにしていきます。 ・日々の子どもたちの姿を様々な形で保護者の方にお伝えするようにしていきます。 ・地域とのつながりを大切にしながら、親しみのある保育園作りをしていきます。 |
|---|

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

釜利谷保育園は、京浜急行金沢文庫駅から徒歩7分、民家や商業施設から少し離れ、金沢中学校に隣接した閑静な地域に位置しています。近くには宮川が流れ、散歩に適した公園も沢山あります。横浜市立の保育園で、昭和41年7月に開園し、園舎は木造平屋建て、園庭は636㎡あり、1～5歳児71名（定員65名）が在籍しています。令和6年4月に民間移管される予定になっています。

【園の特徴】

- ・「自分が大好き、友だち大好き～のびのび、いきいき元気な子～」を園目標として、子どもの自己肯定感を高めたり、子どもの思いを大切にしている保育を行っています。
- ・フォトカンファレンス（写真を活用した保育の振り返り）や園内公開保育を実施し、職員同士で学び合う場を作って保育の質の向上につなげています。
- ・年間計画を作成し、夏の合同保育、秋・お別れ遠足、年長児が着替えや散歩の手伝いを行うなど、年間を通じた異年齢保育を行っています。
- ・クラスごとに年間を4期に分けた食育計画や飼育・栽培計画を作成し、食育活動や飼育・栽培活動に積極的に取り組んでいます。
- ・地域の子育て支援や地域とのつながりを大切にして、保育交流、園庭開放、育児相談、育児講座、大川公園愛護会活動等に積極的に取り組み、地域からも親しまれています。

⑤ 第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|---|
| 評価実施期間 | 2021年4月1日（契約日） ～ 2022年1月30日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 3回（2016年度） |

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

1. 子どもに遊びや活動の時間や場所を保障する保育

園では、子どもには自分の好きな場所があることを重視し、保育室にカーペットや棚等でコーナーを設けたり、回廊奥に遊びのコーナーを設けたりして、子どもが好きな場所で遊びこめるようにしています。

食事の終わりは急がせず、子どもが納得したうえで次の行動に移れるよう、声をかけて見守るようにしています。散歩先では、公園や遊歩道等安全が確保できる空間であれば、保育士が見守る中で、子どもが思いのまま探索できるようにしています。

遊びや表現活動では、デイリープログラムで決められた時間帯を超えて、納得するまで遊びや活動を見守り、部屋の移動時には、遊んでいた玩具も一緒に移動して遊びが途切れないようにしています。

2. コロナ禍の環境下における子どもの姿を保護者に伝える工夫

コロナ禍下の難しい状況下で、工夫しながら子どもの姿を保護者に伝えられるよう取り組んでいます。例えば、クラス懇談会は同じクラスを2回に分け、保育参加は中止して時間帯を区切った保育参観に変更し、運動会や親子で遊ぼう等の保護者参加行

事はクラスごとに実施する時間を決めてクラス入れ替え制で実施するといった工夫をしています。

また、園では、保護者と共に歩いていくことが大切との考えの下、日々の楽しい保育の展開の写真での可視化に加え、園が行っている様々な環境づくりや園内の取組について保護者に伝えるべく、「保育園の中をのぞいてみよう！」と称した大きなボードを作成して園内に設置しています。ボードには、保育中の子どもの写真に添えてわかりやすいコメントを入れ、週替わりで保育園の取組を伝えています。その結果、保護者の関心が高まるとともに、子どもたちも関心を持つようになり、「アクションを起こしてまずはやってみよう」という機運が生まれました。子どもたちのやる気や自主的な行動にもつながっています。

3. コロナ禍の環境下における地域子育て支援事業の工夫

地域子育て支援事業については、コロナ禍の環境下でも、地域の親子を孤立させてはいけない、つながりを切らせてはいけないという方針で対応しています。

交流保育では、園児との交流は中止とし、予約制にして参加人数を制限したうえで、「おはなしの会」や「作ってあそぼう」等の講座を開催しています。園庭開放は、緊急事態宣言期間中は中止しましたが、保育園の外壁に「地域の皆様へ」として、様々な手作りの制作用キットを箱に入れて設置し、地域の親子が持ち帰って自宅で一緒に制作を楽しめるよう工夫しています。

◇改善を求められる点

1. 地域子育て支援事業として園の役割・取組の継続

コロナ禍で家に引きこもりがちな地域の親子に向けて、保育講座、園庭開放、育児講座、各種イベント等を積極的に展開しています。今後もこれらの活動を通じて地域の子育て支援事業としての園の役割を継続することが期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度の第三者評価受審にあたって、前回の受審から5年が経過しており、水準は保ててきたのか、足りないことは何か、保育をどう捉えていったらよいか等話し合いの時間をもちました。まずは一人ひとりが評価事項を読み込み、自分なりの意見を持ったうえで、毎週1回、意見交換、見直し、検討を行いました。マニュアルについては、より分かりやすく、誰が用いても間違えない等の使いやすさにも視点を置いて整理し直しました。また、保育者も人的環境であることを改めて意識し、日頃の保育を振り返り、自身を見つめ直す貴重な機会となりました。

今まで当たり前のように行ってきたことが、コロナ禍においては難しくなりました。これまで同様の写真での保育の可視化以外に、園内の取組、様々な対策や環境等をもっと保護者に分かってもらいたいと『保育園の中をのぞいてみよう！』という目を引く大きなボードを作成し、週替わりで伝え続けた取組も、現状を見直し考え出したアイデアの一つでした。職員が自主的に動きだす姿、これぞ釜利谷の底力だと誇りに思います。

全ての子どもたちが、自分をかけがえのない存在だと感じながら、自信をもって生きていくためには、保護者の方々にご理解をいただき、ともに歩むことがとても大切です。そして、子どもたちだけでなく職員もいきいきと保育を楽しんでいる、そんな保育園でありたいと常に考えます。子どもたちの幸せのためにできることを常に念頭におき、引き続き創意工夫をしていきながら、前向きに取り組んでいきたいと思っています。

最後に、第三者評価の受審にあたり、ご尽力いただいた評価機関の皆様、ご多忙に

もかかわらず利用者アンケートにご協力いただいた保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

- ⑧第三者評価結果
別紙2のとおり